



テレビも備え付けられ、患者さんにできるだけリラックスして治療を受けていただけるよう工夫されています。



現在、従来の化学療法剤に加えて、がん細胞だけで異常を来しているところ(主に増殖に関わるタンパク質)にのみ作用する薬剤も開発されています。このような薬剤を分子標的治療薬と呼び、保険診療でも多

くの薬剤が使えるようになっていきます。

外来通院で化学療法を受ける場合は、通常の外来点滴室とは別の外来化学療法室という特別の部屋で点滴治療を行います。外来化学療法室は、化学療法を専門的に行っている病院では必ず設けられていますが、当院にもテレビ付きのリクライニングチェアを配備した部屋があり、長時間の化学療法もできるだけ患者さんの負担にならないように配慮しています。

### 保険が使える副作用のない新しい薬も次々と登場！

化学療法に使用する薬剤には多くのものがあり、対象となるがんの種類によって、薬剤の種類も異なります。1種類の場合も、数種類の薬剤を組み合わせる使用もあります。一般的に抗がん剤の副作用として、脱毛や吐き気を思い浮かべる人は多いと思いますが、実際には毛が抜ける事もなく、吐き気も来さない薬剤もあります。また最近では、これらの副作用(脱毛に関しては難しいですが)を予防する、あるいは改善する薬剤も多数開発され、昔の化学療法の「効き目がなくて辛い」というイメージはかなり変わってきています。

### 日進月歩の化学療法、最新情報は患者さんも積極的に

がんの治療法の一つとしての化学療法の進化はとても早く、月の単位で進歩していると言っても過言ではありません。今は、インターネットでも多くの情報が得られますので、患者さん自身でも、最新の情報を得たうえで、担当の医師と最善の治療について相談することがますます重要になってきています。



化学療法に使用する点滴の薬剤は、無菌状態に保たれたクリーンベンチでひとつひとつ調合されます。